**歴史ある松本城**

松本城の乾小天守、渡櫓、高さ29.4mの大天守閣は1590年代に築かれた。現在、松本城は日本で2番目に古い城であり、国宝に指定されている5つの城のうちの1つである。

松本城天守は、城郭を構成する3つの郭のうち、本丸にあたる。築城当時は、堀と土塁で囲まれた3つの郭があり、郭はより強固なものとなっていた。その結果、城は女鳥羽川（南方1.3km）にまで及び、約39万平方メートルの広さを持つようになった。

一番奥の本丸には、城主の住居を兼ねた本丸御殿がある。二の丸には蔵や御殿、三の丸には上級家臣の屋敷があった。

19世紀には、1868年の明治維新を皮切りに、社会的、政治的な大改革が行われた。厳しい階級制度が廃止され、城は戦乱の時代の遺物とみなされるようになった。その後、1世紀半の間に、城の土塁は削られ、城門のほとんどは取り壊され、3つの堀のうち1つはほぼ完全に埋め尽くされた。

城の中核となる建造物も破壊されてしまうところだったが、住民の努力により今も残っている。1930年、2つの内堀と一番外側の堀の一部（赤色部分）が国定史跡に指定され、以後、保護されている。